

車体業界の市場動向

1. 車体工業会の現状

- 1-1 商用車全体の販売状況
- 1-2 会員生産台数

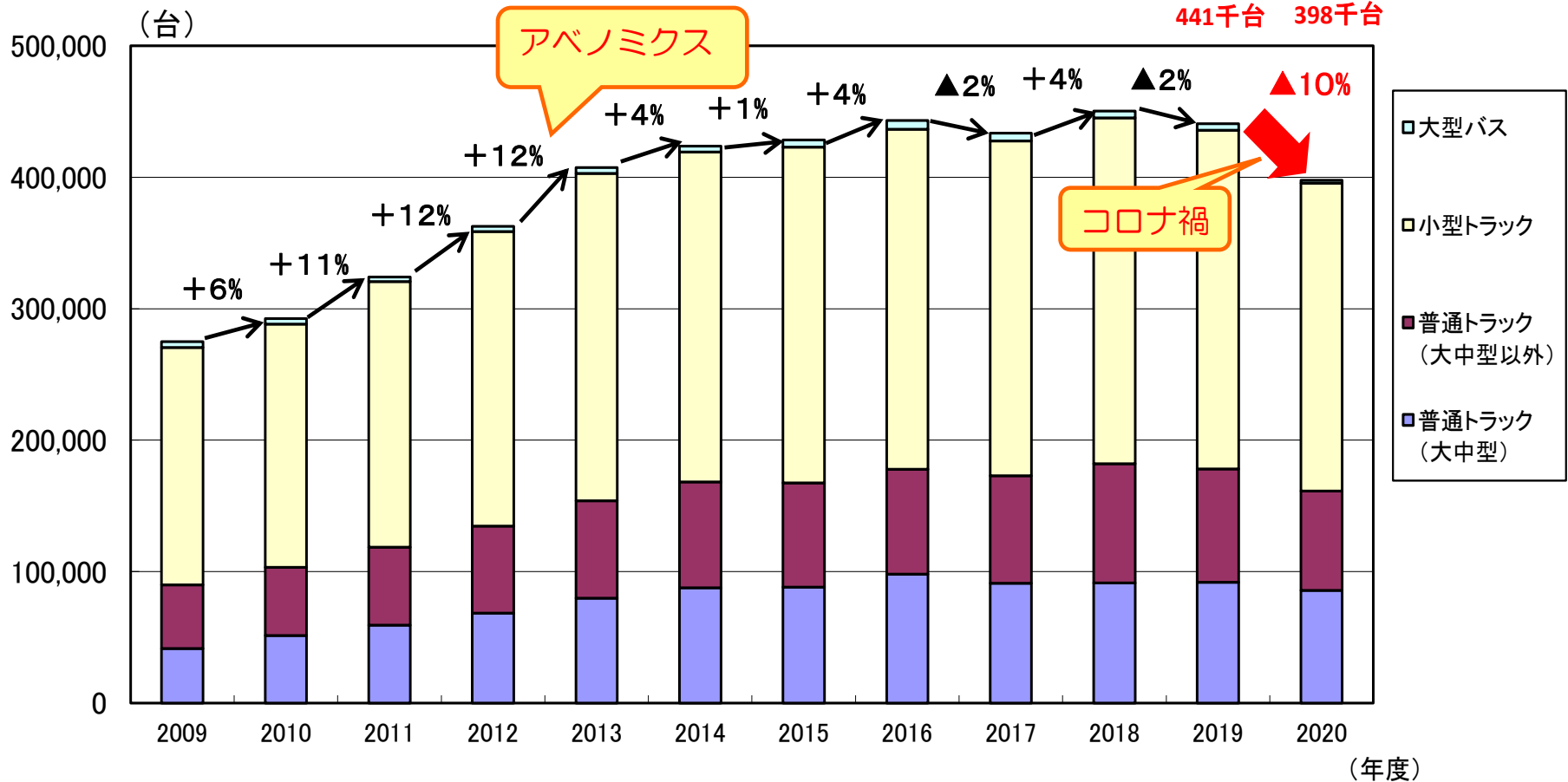
2. 取り巻く環境変化

- GDP成長率
- 貨物車保有台数
- 普通貨物平均使用年数
- 貨物輸送量
- 輸送分担率
- 生産／保有台数見通し

1. 車体工業会の現状

1-1 商用車全体の販売状況

2020年度実績



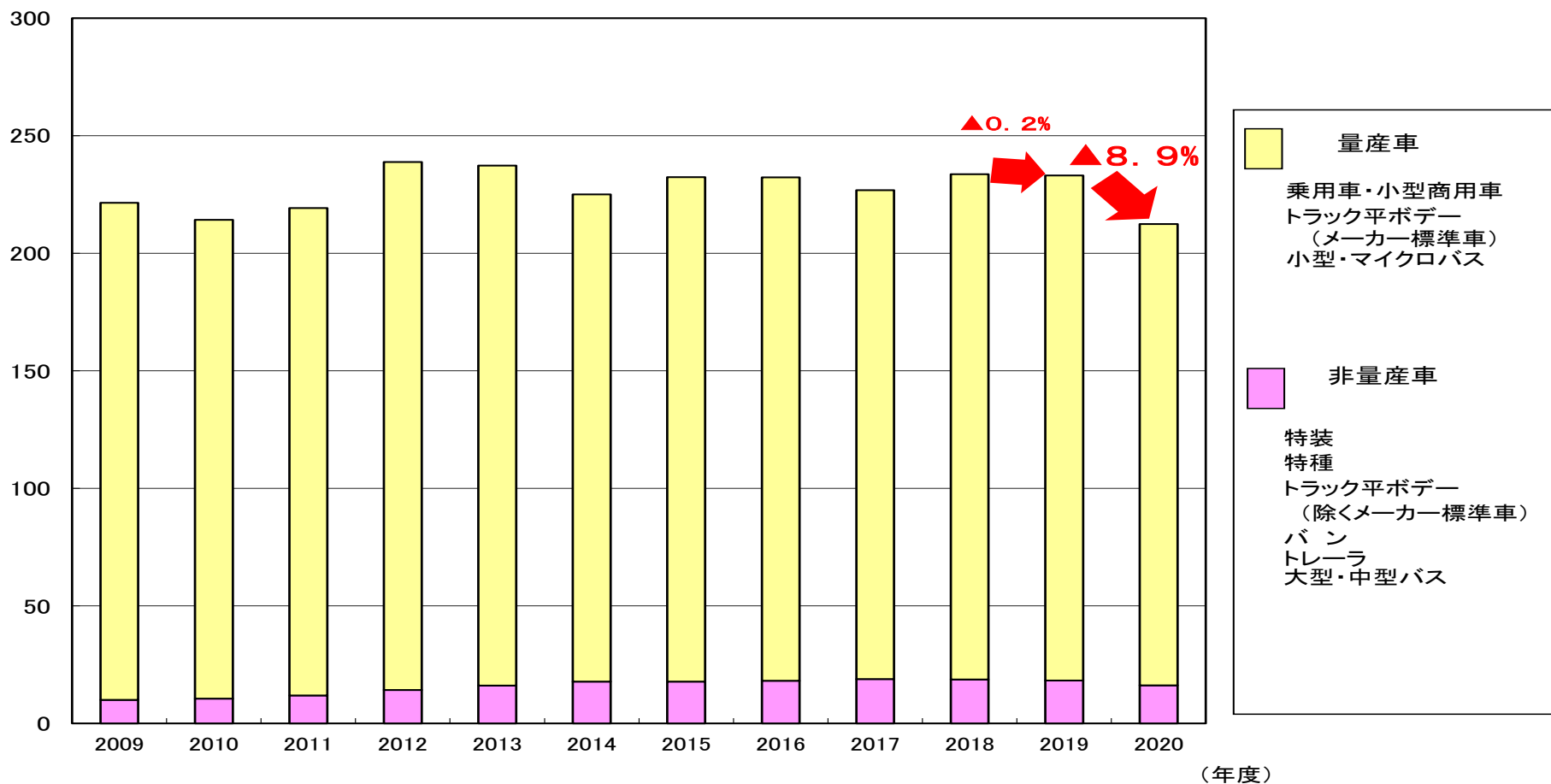
1. 車体工業会の現状

1-2 会員生産台数

① 全体

・ 量産車、非量産車共に減少し、212万台と前年度比▲8.9%

(万台)



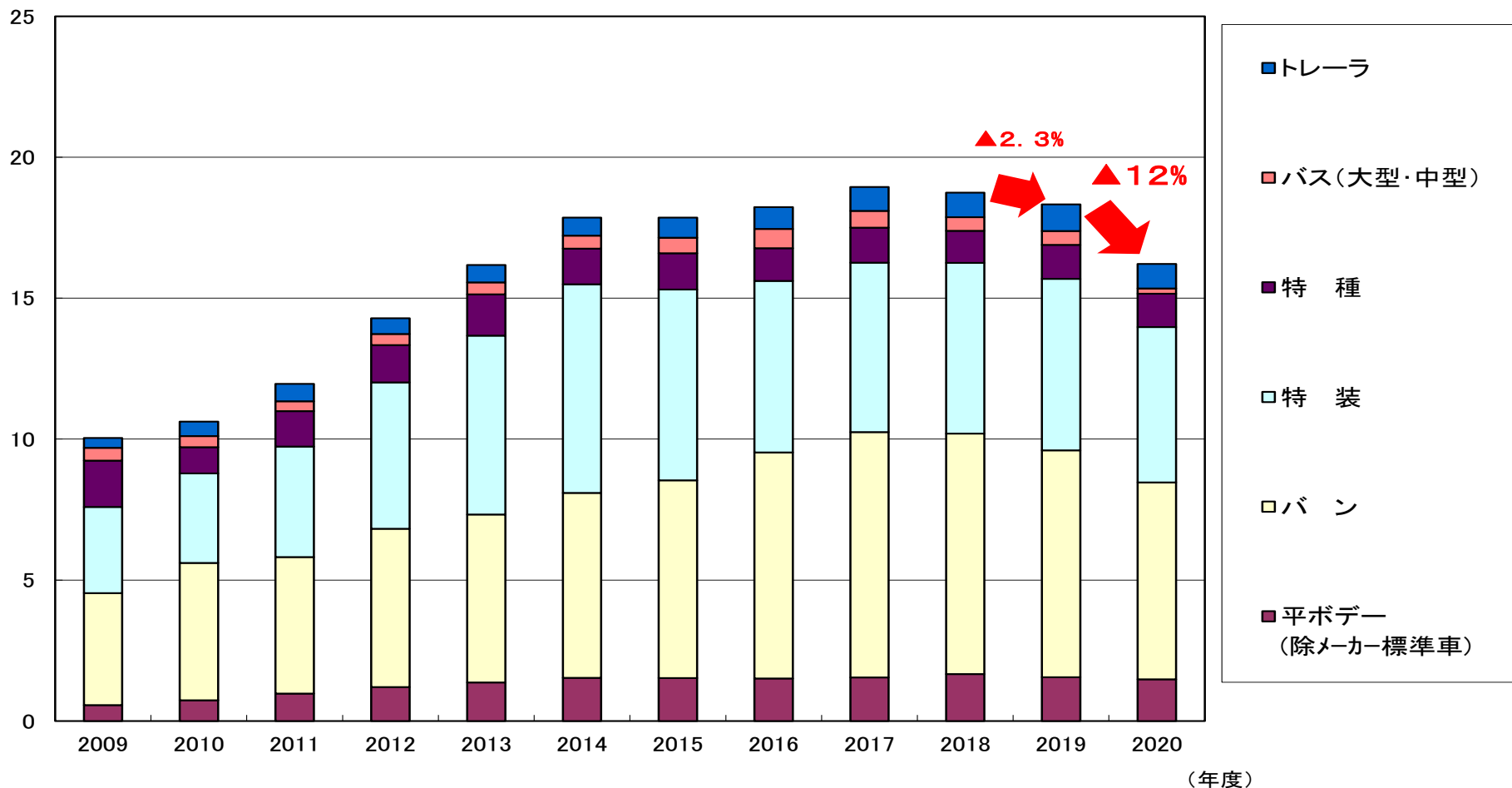
1. 車体工業会の現状

1-2 会員生産台数

② 非量産車

- 全ての車種が減少し、16.3万台と前年度比▲12%となり3年連続の減少

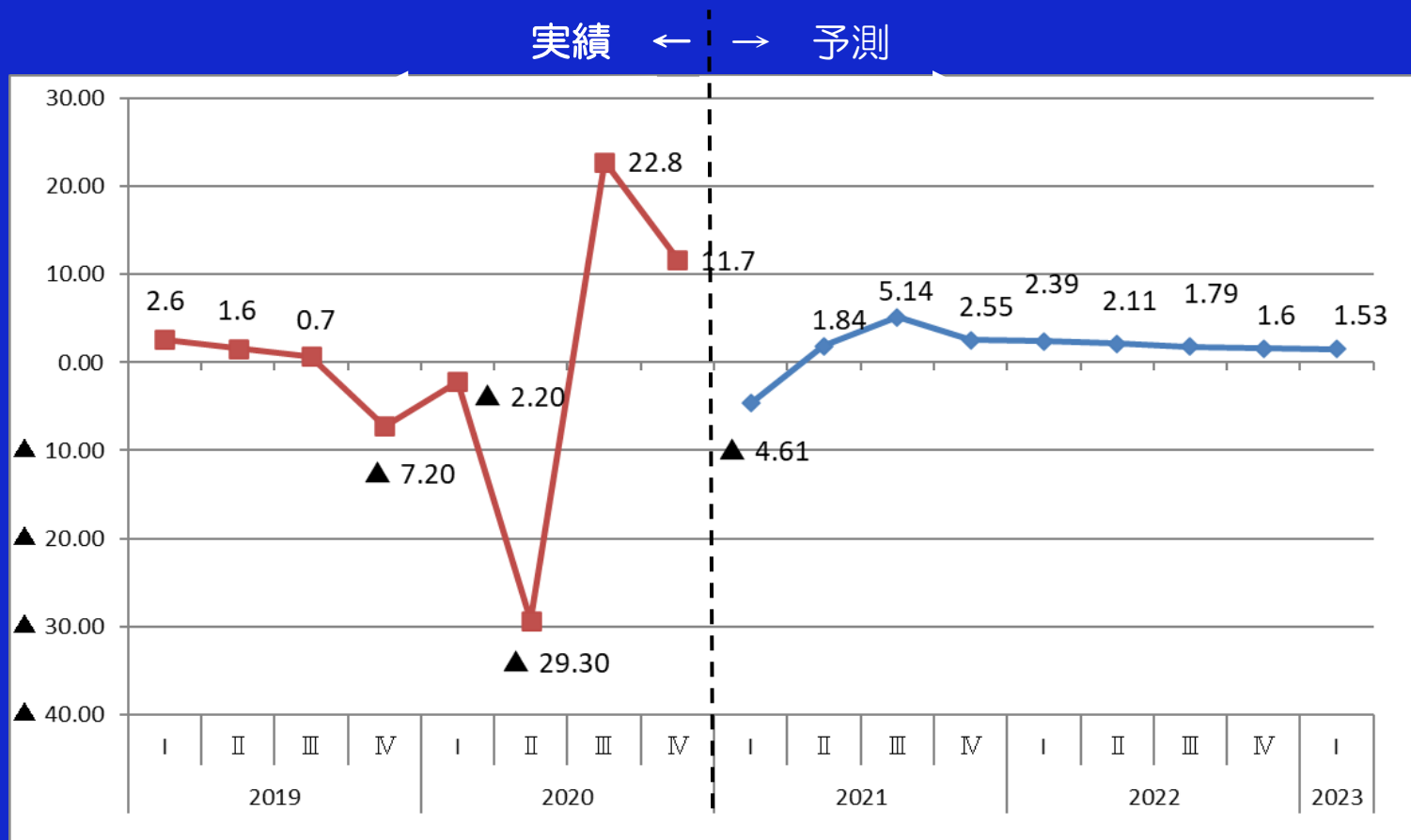
(万台)



2. 取巻く環境変化

GDP成長率

実質GDP成長率(年率)



- 20年Ⅳ期の実質成長率は11.7%（内閣府 2次速報値）
- 21年Ⅰ期はマイナス、Ⅱ期以降プラスに転ずる予測

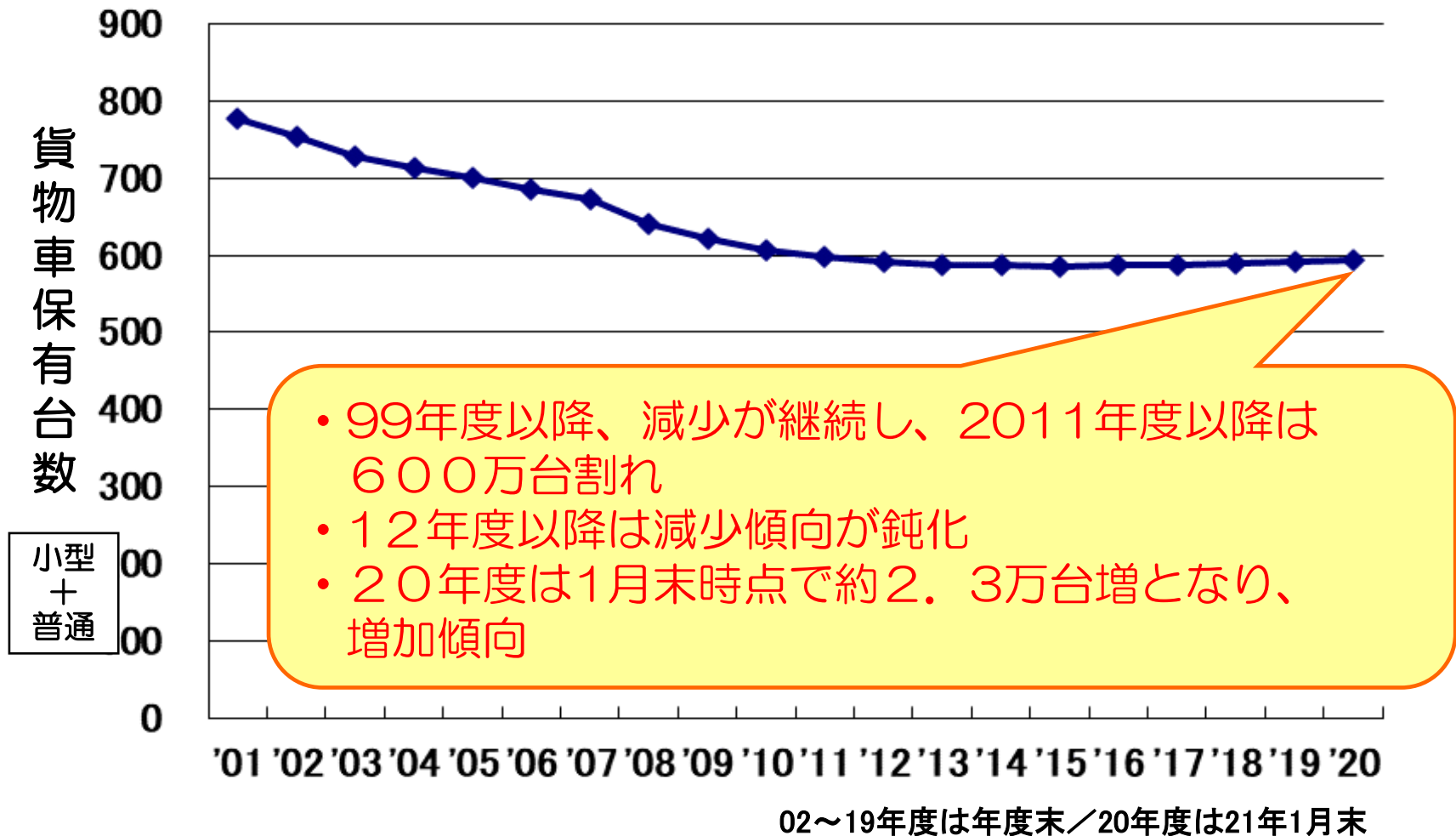
出所：①実績：内閣府GDP速報

②予測：ESPフォーキャスト調査（日本経済研究センター）

民間予測機関の予測値の平均値（2021年4月27日～5月10日調査結果）

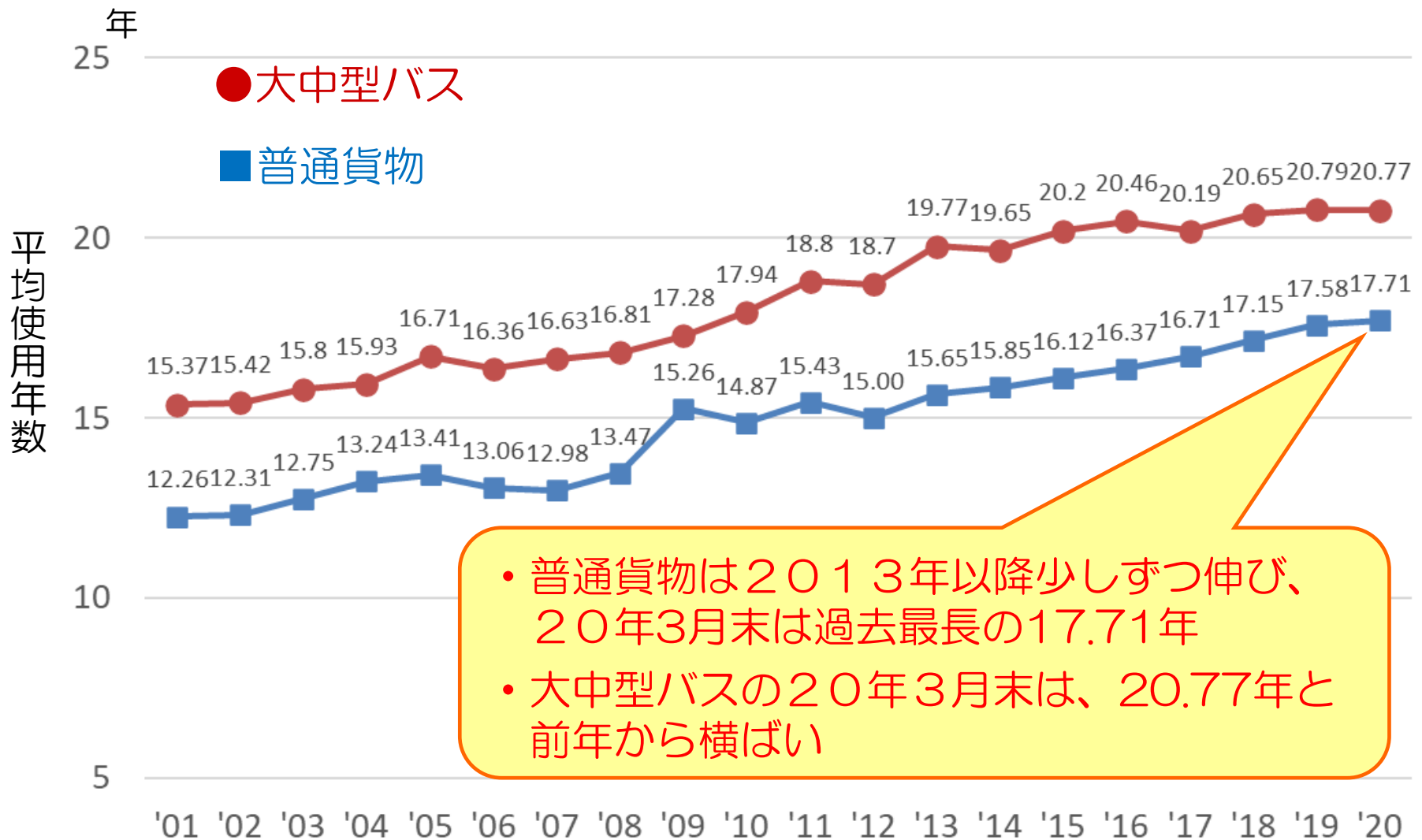
2. 取巻く環境変化

代替母数の減少鈍化



2. 取巻く環境変化

使用年数の伸び続く



- 普通貨物は2013年以降減少しずつ伸び、20年3月末は過去最長の17.71年
- 大中型バスの20年3月末は、20.77年と前年から横ばい

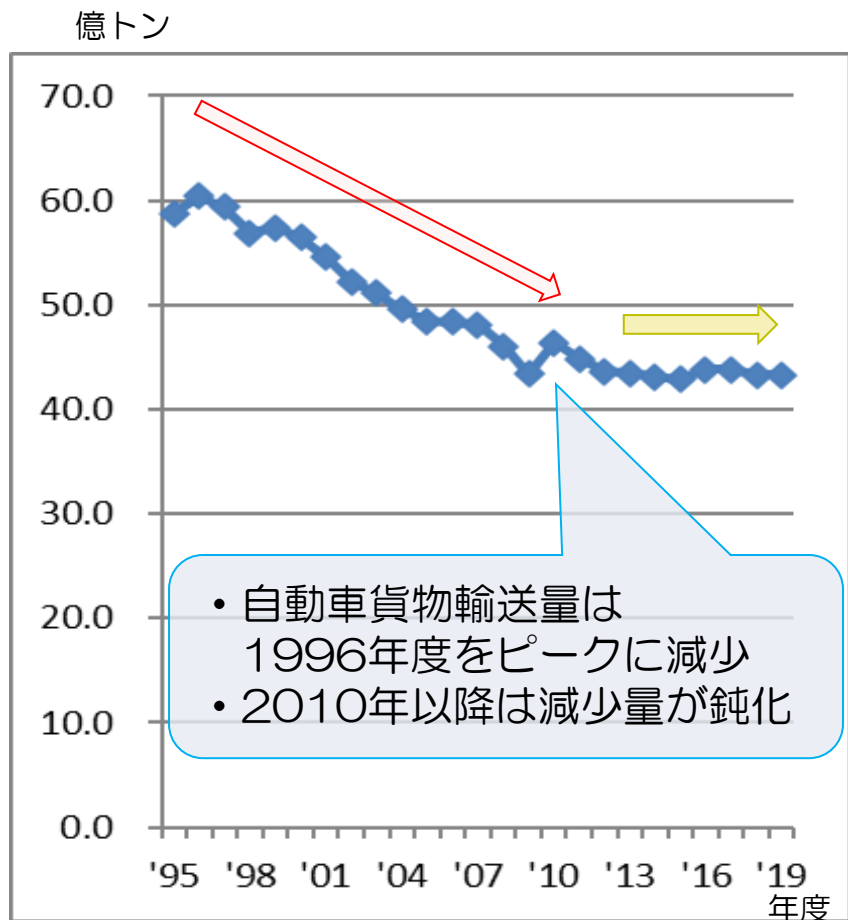
(各年3月末時点)

出所：(財)自動車検査登録情報協会

2. 取巻く環境変化

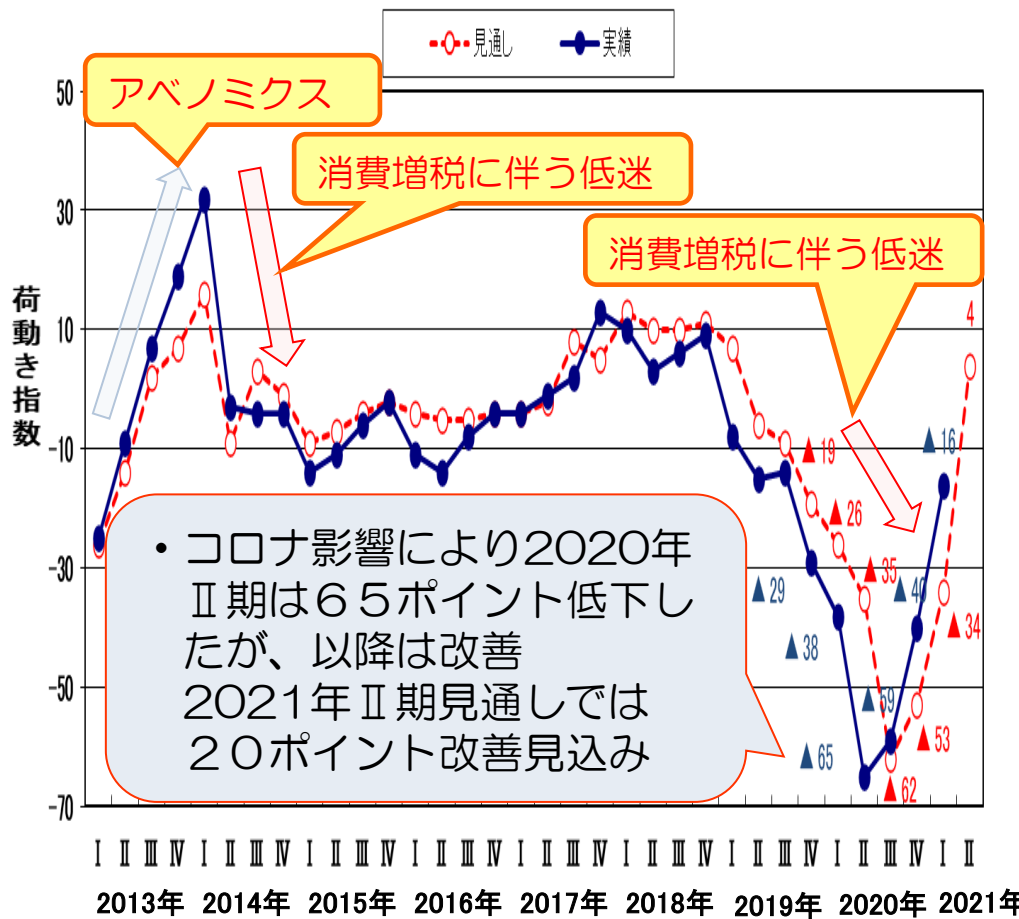
貨物輸送量は漸減

<自動車貨物輸送量推移>



出所：国土交通省

<貨物輸送量の見通しと実績>



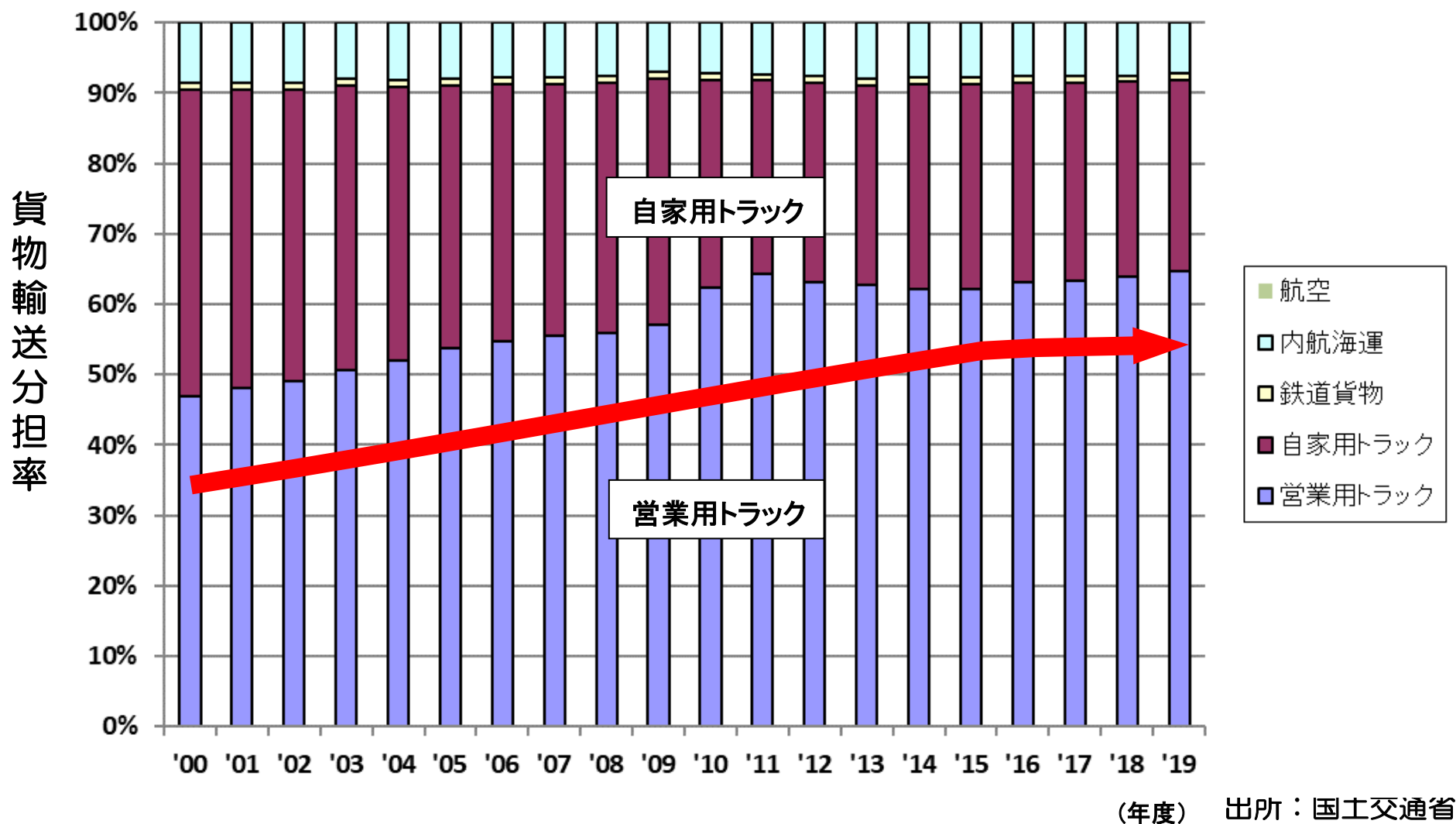
荷動き指数＝増加の割合－減少の割合

出所：日通総研短観

2. 取巻く環境

輸送分担率（輸送トナ数）

- トラックの分担率は90%超で推移。営業用・個人用比率は約7：3



2. 取巻く環境変化

中長期的には漸減の見込み

- 時限的特需の終了等により、市場（保有）は600万台前後で推移
- 使用期間は15～16年が継続
- 2003年から2007年の5年間（安定期）の平均代替は保有の約2.6%

◇上記を前提に生産台数は現在がほぼピークで、中長期的には
15万台/年±1万台程度で推移するものと見込まれる

